

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470102478		
法人名	社会福祉法人 碓山会		
事業所名	居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム		
所在地	大分県大分市大字津守字長田2547番地の6		
自己評価作成日	令和5年10月4日	評価結果市町村受理日	令和6年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで自然環境に恵まれ、管理栄養士による食事を提供し、リビングが広く、年数回の外出行事を実施している。花壇で野菜や花を育て、収穫や見物の楽しみがあり、緑のカーテンを作り環境対策をしている。地震時に避難場所指定になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・自然環境が豊かで隣接する同じ法人の建物で囲まれ安心感がある。
- ・職員間の連絡が取れており要望に沿って支援が行われている。
- ・コロナ禍でも館内での素麺流し等、楽しく過ごせる工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念があり、職員会議等で内容を確認している。常に利用者の意思を尊重し、バイタルで体調を確認し、処遇会議にて検討し、電話や文書にて家族との相談もしている。	グループホーム独自の理念があり、各自確認の上、日々の実践の中で管理者と職員が活用、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等で交流はできていない。実習生やボランティアの受け入れを開始している。	コロナ禍で交流の場は以前に比べ減ってはいるが接点を持つ様に努めている。ボランティアも一時復活したが、今はまた中断している。地域との交流では神社の神輿が来てくれたりと状況を見ながらの交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞発行や、推進会議等で情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、2か月毎の活動報告や、事故・ヒヤリハット・今後の予定等を報告し、意見交換やアドバイスを受けている。職員会議等で他の職員と共有している。	二ヶ月毎の開催で活動の様子や感染対策等を説明し意見やアドバイスをもらいサービス向上に活かしている。他事業所の情報を聞ける機会もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新時や、ケアプラン更新時、事故報告等で、長寿福祉課や生活福祉課等に相談や報告し、時には電話で相談している。	市の担当者は運営推進会議に参加しており、アドバイスや情報発信をしている。担当に出向いて訪ねる事もある。相談やサービスの取り組み等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	推進会議で、身体拘束防止等検討委員会を開催し、報告・検討している。年2回身体拘束防止の取り組みで研修をしている。玄関等は施錠しないよう取り組んでいる。	虐待防止委員会で事例のチェックをし、拘束の研修も年二回行われるなど防止に取り組んでいる。スピーチロックはその場で注意し、職員会議でも話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で年2回身体拘束防止や高齢者権利擁護等の研修をして、虐待防止の内容の研修もして検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で年3回身体拘束防止や高齢者権利擁護等の研修をして、虐待防止の内容の研修もして検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や、入所前に時間をかけて契約書や重要事項等を説明して、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、要望や意見を聞き、月1回報告書を作成して家族に情報提供している。時には電話にて、相談や近況報告している。	お互い信頼関係を築き、話しやすくなる様努めている。家族には月一回、日々様子を報告して情報を提供し、直接意見を聞き反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝礼等で、意見交換や情報提供の時間を作っている。必要に応じて上司との相談の機会を設けている。	職員会議や日々のケアの中で職員の意見を聞き、物品購入等提案を聞く機会を設け反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の意見を聞き、職員会議等で働く環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアに合った研修の参加を進めて、スキルアップの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に積極的に参加を促し、交流の機会を増やし、他の居宅とのネットワークを大切にして入居者確保等に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居者に対しては、基本情報やサマリーの他に職員が、その方について得た情報等を共有し、できるだけ本人がゆっくりと楽しく自分らしく暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、入所後より家族の不安や負い目、精神的な切なさ等に耳を傾け、安心して任せていただけるよう努めている。要望等が反映しやすい関係づくりも心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時に本人家族と必要な支援・サービスが何かをじっくりと話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者との関係が、一方通行にならないように気配りして接している。定期的に席替えをし、皆さんと会話ができるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在感染症流行の為、家族からの電話やオンライン等を利用して、家族との触れ合いの機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でのやり取りをしたり、病院受診や美容室に行ったり、墓参り等にも行かれている。	感染対策を考えながら年賀状や手紙を出したり、電話をかけるなどのサポートを行い関係継続の支援に努めている。病院受診や馴染みの美容室に行ける様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替えをし、時には職員が間に入りトラブルを自然に回避したり、少人数で過ごせるように、テーブルを離せるような工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい入所先へ情報提供し、生活支援が円滑にできるようにし、相談や支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人から希望や意向を聞き取り、本人の生活の支援の軸としている。	家族や本人から本音を聞き出す様に工夫に努めている。本人の生活歴や日々の暮らしの中で思いや意向の把握に努めている。職員で共有し、思いに添ったケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から入所前までの、生活歴や経過を聞き、ケアプランを作成し、2か月毎に処遇会議で、サービスの見直しをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックをし、ケース記録に本人の変化や、気がかりなことを記録し状態変化の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前に家族や本人、担当ケアマネに聞き、介護計画を作成している。2か月毎に会議をし状態を把握し改善している。記録簿にサービス計画書を貼り、毎回見れるように工夫している。	二ヶ月毎にモニタリングを行い、生活状況を見ながら入浴あけは変化があるかなど現状に即した介護計画の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や、日報に記録し、朝礼や会議で検討し、サービスにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の意向で、リハビリやデイケアの利用も取り入れている。マッサージ器の利用もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの為、利用を控えているが、外で散歩をしたり、カラオケ教室や三味線教室に行けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先し、病院受診している。訪問診療の利用も支援し、夜間対応や往診も受けられる。緊急時は職員対応している。	訪問診療の利用者もあり、元々のかかりつけ医の受診も、家族の協力もありスムーズである。緊急時は職員対応も可能で、適切な医療支援もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が必要な時は、デイサービスの看護師にお願いしている。病院受診時や訪問診療時は、看護師に手紙か口頭で状態を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の情報提供をし、入院時の支援に協力している。ソーシャルワーカーと連絡を密にして、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化に関する確認書等で説明し、理解を得る。家族との相談を密にしながら、納得のいく方法を話し合っている。他施設の情報も提供している。	入居時に重度化の指針に添って家族の了承を得ている。看取りは行わない方針であるが、転居先の提案等、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを基に、会議等で応急手当等の研修会をして事故発生時の対応などのシミュレーションをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をして、災害時の心構えをしている。職員等も消火器の取り扱いの訓練もしている。	年二回消防も入り消火器の使用法や災害時の対応も訓練している。避難所にディサービスホールが指定されている。備蓄は法人の方で管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の反応や、気分、場面により声掛けの方法を変えて対応するように心がけている。	トイレ誘導の時の声掛けやプライバシー、尊厳を守ることに共感しながら対処し欠点を指摘しないで良い所を探す様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人の意向を考えて、言葉や態度に気を配り、本人に意思を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、フロアーや居室で過ごしていただき、食事の時間も柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診時や、外出時は家族の意見を聞き、又体温調節ができない利用者には、アドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶つきやテーブル拭きを手伝っていただき、一人一人の嚙下状態を見て、とろみや刻みの工夫をしている。	法人の厨房で調理した食事が提供されている。誕生日や行事食等、食事を楽しめる様工夫されている。夏には素麺流しなど、季節を感じられる支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録して、状態を把握し、時には医師と相談し、栄養補助飲料等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、できない場合は職員がケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを把握し、誘導や、声掛けしている。	排泄パターンを把握し、時間を見て誘導を行っている。職員は本人のプライバシーを配慮した声掛けを心がけ、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況を記録し、牛乳や、水分、薬等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴をし、夏場はシャワー浴も実施している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週3回の入浴を基本としている。入浴剤を入れたりして入浴が楽しみになる様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向で居室や、フロアで自由に過ごすことを心掛けている。昼夜逆転にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、誤薬を防ぐため名前を確認し手渡ししている。日頃の状態を記録し、受診時や往診時に医師との情報交換している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草むしりや、新聞購読、コーヒー等を提供し、お茶つぎ、テーブル拭き等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出を控えていたが、6月にふるさと訪問で外出した。買い物には出かけられていない。	コロナ禍で外出(遠出)が厳しい中、車で30分程度の自宅までドライブしたり、本人の希望で自宅玄関先で写真を撮ったり、敷地内を散歩したり、日向ぼっこを楽しむなど閉塞感を感じない様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方には、自己管理にてお金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末時は年賀状を書き、必要に応じて電話にて会話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節に合わせた装飾を工夫し、加湿器やエアコンにて温度管理している。	ホールの壁には猫の色々な表情の写真が飾られるなど、季節を感じる工夫がされている。テーブルの配置等にも気配りをして気持ちよく過ごせる様工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性を配慮し、気のあった入居者同士が過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使用していた物や、愛着のあるものを持ってきていただき、心地よく過ごせるように努めている。	落ち着いて過ごせる空間になる様その人その人に合わせた工夫がされている。趣味の物やテレビや家具など、使い慣れた物が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ、家具の配置など環境整備を行い、安全に暮らせ、自立した生活ができるように考慮している。		